



ドマのようす



屋内のようす

喜多見^{きたみ}に住む加藤家は代々農業を営み、明治時代末期になると副業として養蚕^{ようさん}を行っています。

江戸時代後期の一般農家によく見られる整形^{よつま}四間取り形式の主屋ですが、口伝などから安政2（1855）年にはすでに建っていたと考えられます。

当主屋は養蚕のために設備がそなわっている間取りに特徴があります。カッテとは別に養蚕のためにヒロマにも炉が切られています。またヒロマは天井^{いたすのこてんじょう}を板簀子天井にし、そして屋根の棟には煙出し櫓^{やぐら}を付けています。これは煙^{かいこ}を嫌う蚕のための工夫です。

世田谷区指定有形文化財
旧加藤家住宅主屋
きゆうかとうけじゆうたくおもや